



アジア中心性

三池 賢孝

ハワイ大学ヒロ校コミュニケーション学科教授（アメリカ合衆国）

アジア中心性とは？

アジア中心性とは、アジアの人々や現象について論じる際、アジアの言語、宗教・哲学、歴史そして美学を意識的に中心に位置づける行為である。ハラグイム的かつ実用的思想としてのアジア中心性は、多様なアジアの伝統を理論的資源として蘇らせ更に活性化させなければならないと主張する。そうすることによって、アジア人を他者が生きる経験の中の客体や傍観者ではなく、自分の文化的現実の主体及び行為者として捉えることができるとする。また、アジア中心性は、アジアからの発言や理念をいかすためにアジアの遺産を大切にすることもある。従って、消極的な参加者ではなく積極的な行為者としてのアジア人及び人間としての最善の在り方を見出す目的で、アジアの遺産を倫理的考察の資源として再評価し更新する方法を模索する。

誰がこの概念を使用するのか？

アジア中心性は、アジアの個人や共同体の分析に携わる理論家や実践者（特にアジア研究、アジア系アメリカ研究、異文化間カウンセリング、多文化教育、国際関係、そして異文化コミュニケーション）によって用いられているし、また用いられることができる。アジア中心性は次の3つのことを行うことができる。
第一に、アジア人の思考と行動をより正確に解説することができる。第二に、積極的で健全なアジア人のアイデンティティーを育てることができる。第三に、アジアの精神の中に文脈化している倫理的理想的から否定的な慣習を批判することができる。

異文化ダイアログとの関連性？

アジア中心性は、アジアの文化的遺産を持つ人同士あるいはアジア人とアジア人でない人との異文化接觸を単なる模範・模倣の出会いとならないようにし、多文化学習としての眞の異文化対話を促進する。アジア人にとっては、アジア中心性は異文化的な状況において平等と相互性の基盤を提供してくれる。アジア人でない人にとっては、アジアの人間性やその理想像に非自文化主義的な態度で触れることによって、別の倫理的な人間としての在り方、知り方、そして慈しみ方を比較文化的に省察することを助長する。

今後の課題

南アジア、東南アジア、西アジアについてのアジア中心的研究は、現在の文献ではあまり見当たらない。これらの地域は、アジア文明の交差点であり、アジアの異文化交流や多文化共生に関して豊かな歴史的知見を提供してくれる。アジア中心の視点からの南アジア、東南アジア、西アジアについての今後の理論化や調査は、これらの地域における文化のダイナミックスへの理解を向上させるだけでなく、異文化対話や多文化社会のアジア的モデルを明確に提示することになるであろう。

参考文献

Miike, Y. (2014). The Asiacentric turn in Asian communication studies: Shifting paradigms and changing perspectives. In M. K. Asante, Y.



Center for Intercultural Dialogue

Key Concepts in Intercultural Dialogue

異文化ダイアログにおいて重要な概念

Miike, & J. Yin (Eds.), *The global intercultural communication reader* (2nd ed., pp. 111-133).
New York, NY: Routledge.

Wong, P., Manvi, M., & Wong, T. H. (1995).
Asiacentrism and Asian American Studies?
Amerasia Journal, 21(1/2), 137-147.

Yin, J. (2009). Negotiating the center: Towards an
Asiacentric feminist communication theory.
Journal of Multicultural Discourses, 4(1), 75-88.